



Title	第2回臨床哲学フォーラム：「BDSMをめぐる生の営み：ケアとは何か？」の特集にあたって
Author(s)	小西, 真理子
Citation	臨床哲学ニュースレター. 2021, 3, p. 115-117
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/79258
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特集5 第2回 臨床哲学フォーラム（規範の外の生と知恵）
テーマ：BDSM をめぐる生の営み——ケアとは何か？

第2回臨床哲学フォーラム
「BDSM をめぐる生の営み——ケアとは何か？」の特集にあたって

小西 真理子

日時：2020年11月14日（土）13:00-17:00（開場：12:45）

場所：大阪大学豊中キャンパス&Zoom

【企画趣旨】

拘束・支配・加虐は「暴力」であり、行使すべきではないものとして、調教・服従・被虐は権利を侵害するものであり、避けなければならないものとして、一律に見なされてきた傾向にある。また、BDSM の文脈で語られることは、自らとは別の世界で展開されていることだと切り離して考えているような姿勢も見受けられる。このフォーラムは、ここで「前提」とされているものを、多様なあり方を見せる BDSM という営みや、さまざまな SM 実践者の語りや知恵から問い合わせ直すことを目的とする。

【プログラム】

13:00-13:10：趣旨説明・発表・講演者紹介（司会：小西真理子）

13:10-13:40：「女性サディストの技術とフェミニストなマゾヒスト——BDSM の視点をつ
うじた「ケア」の再考」：小西真理子（大阪大学）

13:40-14:10：「女装フォビア、性的指向、ジェンダー・アイディンティティ」：ほんまなほ
(大阪大学)

14:10-14:40：「日本の商業 BDSM と「真の SM」の追求」：河原梓水（福岡女子大学）

14:40～15:00 休憩

〈講演会〉

15:00-16:00 講演者：観菜月らみい女王様「SM と私」

16:00-16:30 講演者&発表者のクロストーク

16:30-17:00 会場からの質問

2020年11月14日(土)に第2回臨床哲学フォーラム「BDSMをめぐる生の営み——ケアとは何か?」を開催し、福岡女子大学の河原梓水さんとフリーランス女王様の観菜月らみいさんのお二人を招聘し、研究発表およびご講演を行っていただきました。加えて、研究室教員である、ほんまなほさんと私(小西真理子)も発表を行いました。この特集には、当日、発表・講演を行った4名の原稿に加え、研究室教員の堀江剛さんによる、フォーラムを受けてのエッセイも掲載しています。

本フォーラムはBDSM(あるいはSM)という一般的にはその内実があまり知られていない事象をテーマとしたものであることに加え、強烈な性表現が多数なされるものでした。また、BDSMのみならず、日本における性風俗としてのSM(商業SM)との接点が色濃く表れているフォーラムもありました。そのような理由から、特に大学という場でこのようなフォーラムを開催することによって、場合によっては発話者への誹謗中傷が起こりかねない、大変繊細な配慮が求められるフォーラムであったと考えます。そのため、詳細な開催場所の公表は行わず、参加申し込みや当日の参加の仕方も、幾分ハードルが上がる仕方をとらせていただきました。そのような形式を取らせていただいたにもかかわらず、当日会場にお越しいただいたみなさま、オンラインで参加してくださったみなさまにお礼を申し上げます。

一方、発話者らの生と密接なからみをもちながら展開された語りや発表は、学ぶことの多い、大変貴重なものであったと考えます。もちろんここでなされた語りは、BDSMないしSMをめぐる、ある個人に根ざしたものであり、その事象すべてを表現しうるものでも、そのすべてと接点をもつものではありません。しかし、一般化するような仕方ではないからこそ、今回のフォーラムで語って下さった発話者のみなさんには根ざした語りに触れることができたのだと、私は考えております。また、「会場からの質問」では、鋭い学術的な質問はもちろん、ご自身の経験に根ざしたような質問や感想をたくさんいただくことができました。質問・コメントくださったみなさまに、あらためて感謝いたします。また、今回のフォーラムでは光を当てきれていない部分は、膨大にあったかと思います。そもそも、SMという日本ではほとんど研究蓄積をもたない事象に対して求められる仕事は、膨大です。そんななかで、本シンポジウムをきっかけに、少なくとも私たちがどのような人びとに特に光を当てているのかについて、今後はさらに詳細に語っていければと思っています。

本フォーラムの詳細については、掲載された各論考から読み取ることができるかと思います。その点にかんして、注記しておきたいことを申し上げておきます。このフォーラムは、ある程度「セミ・クローズド」であることを前提としたうえで行ったフォーラムです。そのため、この場だからこそ語られたこと、ということもあります。したがって、フォーラムでしか語られていなかった個人情報など、各論考から読み取れる情報以外のものを記憶されている方々には、論考で読み取れるもののみが「公開」された情報であるということをご理解いただき、フォーラムでの話を「公的」に行うのは控えていただくよう強くお願ひ申し上げます。

また、原稿のなかにはフォーラム後にかなりの加筆が行われたものもあります。その第一の理由は、フォーラムにおいては発表者が順を追って発表したため、前の発表で既に述べられたことを後の人々が論じる必要はありませんでしたが、各論考は単独で読まれる可能性が高いものであるため、このような部分の説明が書き加えられたからです。第二に、発話者のなかに当事者の方がいらっしゃることなどを踏まえて（論考の中心的論点でなかったとしても）「優先」的に話されておくべきこと・話されない方が妥当と思われることと、論考では書き記したいと思えるようになったこととのあいだに、多少の差があるということがあります。また、発表時間の関係で、いくつか話されたことの前提や先行研究らが完全に省略されていました。今回の原稿はそのような部分についても加筆されています。第三に、このフォーラムの内容を起点として、今後ひとつの研究成果を発表することを検討しているという事情があります。その研究成果を想定して加筆されているところがあり、長文原稿になっているものもあります。

本フォーラムでは、現役の女王様である観菜月らみいさんにご講演いただきました。らみいさんご講演は、原稿内容もさることながら、声色、語り方をふくめ、表現者としての姿に圧倒されるものでした。ある場所に、ある人が現れて、その場所でのみ表現されることがあるということ、それを経験できるのは、その場所に身をおくことによってのみ可能になるということを、あらためて実感させていただいたように思います。掲載させていただいた原稿での語りには、ある出来事を「規範」的ではない仕方でとらえるということがどういうことなのか、それを知る・考えるためのヒントにあふれていると思います。そして、らみいさんの語りから、私たちはセクシュアリティの奥深さというものを感じ取ることができるのではないでしょうか。どうもありがとうございました。

また、河原さんの原稿を読むことで、女王様にもさまざまなタイプの方がいらっしゃることがわかると思います。本フォーラムは、「これが SM だ」と語ることも、「これが女王様（サディスト）だ」と語ることも目指していません。ほんまさんの原稿を読めば、異性愛的な SM や、SM をめぐるさまざまな境界線に言語を与えることそのものも問い合わせられるでしょう。フォーラム参加者としての堀江さんの視点からは、本フォーラムに応答するひとりの人の姿を見ていただくことができるかと思います。そして、本フォーラムで、私たちがまったくとらえることができていない視点もたくさんあると思います。今後の日本における SM 研究の発展を願っています。